

2004 年 末川杯 総括コメント

予選審査員：ナカオシュンスケ

I. 予選審査の大前提

(ア) 予選審査員の役割

これまで多くの大会において、予選審査員というものは A4 一枚の Judging Sheet の中に数行のコメントを記すに過ぎず、各 Speaker はなぜ自分の Speech がこのように評価されたのかということを知ることができませんでした。これは、落選者と当選者の双方にとって不幸なことです。予選で惜しくも落選してしまった Speaker は、自分の Speech の弱みを最後まで知ることができずに、往々にして他の大会でも落選を重ねます。逆に、予選を通過した Speaker は自分の Speech の強みと弱みが何であるかを把握することができないので、ほとんどの場合、大して書き直しもしないで本選にのぞみます。しかし、こうした努力の怠りは、本選審査員にこき下ろされるという最悪の結末になって自分の身に降りかかってくるのです。

私は予選審査員の最大の存在意義は「教育」にあると思っています。落選してしまった者には次の大会で当選するためのヒントを与え、当選した者には優勝に向けて何を準備するべきかを認識させる。これこそが予選審査員の腕の見せ所であり、醍醐味であると思っています。

ただ、大変申し訳ないことに、今回の末川杯では合計で 33 通もの応募があり、私の仕事との関係から満足のいくようなコメントを書いている時間がなかったのが事実です。そこで、予選を通過されて方の中で、追加でコメントをもらいたいという人がもしもいれば、下記のアドレスまで原稿を送ってくだされば何とかご対応させていただこうと思っています。

ただし、この後、梅子杯の審査もしなくてはならないので、恐らくまともなコメントを返せるのは 2・3 人くらいだと思います。先着で受け付けますので、希望される方はお早めをお願いします。

- Mail to: drunkonspeech@infoseek.jp

なお、時間との関係から、残念ながら予選で落選してしまった方への追加コメントはできません。なぜ落選してしまったのか、その背景には何があるのかを知りたい方は、下記のアドレスで私の Speech に対する考え方を公開させていただいていますので何かの参考にしてください。

<http://drunkonspeech.hp.infoseek.co.jp/>

II. 多くの Speech に共通して見られる欠点

(ア) English Check を受けてから応募する

このような基本的なことを言うのは大変気が引けるのですが、末川杯のような権威ある大会に原稿を応募するからには、事前にしっかりと English Check された原稿を送付してきてください。驚いたことに、今回の応募 Speech 全 33 通中、English Check されたと予想される原稿は、ものの 3・4 本しかありませんでした。

本選に選出される Speaker の数が 9 人であることを考えれば、English Check を受けて応募した人は、仮に内容が大したことがなくても、予選を通過する可能性がものすごく高くなることがわかるのではないのでしょうか。

English Check を受けるということは、就職活動に例えてみれば、きっちりしたスーツに身を包んで面接にのぞむというものです。どんなに能力が高くても、穴だらけのジーンズと髪を金髪にして面接会場に来るような人は、間違いなく採用の対象とはなりません。原稿内容の良し悪し以前の問題として、必ず English Check は受けてから応募してください。

English Check を受ける際のポイントは、Native Speaker に見てもらわなくてはならないということです。帰国子女に見てもらってもほとんど意味はありません。学校の先生、ESS の顧問、知り合いの留学生でも何でも良いですから、米国人や英国人に見てもらうことが肝心です。

仮に外国人の知り合いがいないのだとしたら、今英語を習っている日本人の教授に相談して、別の外国人の教授を紹介してもらうという手があります。いきなり手当たり次第に初対面の外国人に Check をお願いするのではなく、知り合いの先生を介してお願いをした方が、断られる確率がものすごく低くなります。

(イ) “Yes” や “!!” など unnecessary 使用をやめる

今回原稿を読んでいて、疑問文の答えでもないところに、突然 “Yes” や “No” という単語が非常に多く出てきてとても違和感を覚えました。原稿を書いている本人からしてみたら、「 であって、 だ。そうなのです (Yes) なのだ」という流れで使っているのですが、英語としてはおかしいと思います。そこで、個人的な知り合いの英国人と米国人教授に聞いたところ、二人とも私と同じく、自分の意見を押し付けるために、文法的に納得がいかない Yes だの No だのを使うのはおかしいといっていました。みなさん、注意してください。そして必ず English Check は受けてください。

もうひとつ、感嘆文でもないところに、“!” や “!!” という記号を連発している人がたくさんいました。この点も上記の二人に確認したところ、Speech の原稿という正式なものに対して、むやみやたらに規則に従わない “!” や “!!” という記号を付すのは幼稚な感じがするということでした。特に “!!” などは使用するものではないということです。Speech の原稿はカジュアルな文章ではないのですから、ふざけた記号の使い方は止めた方がいいと思います。そして、繰り返しになりますが、ちゃんと English Check は受けてください。

(ウ) タイピングの基礎がなっていない人が多すぎます。

今回原稿を読んでいて、原稿のタイピングすらまともにできていない人が多くて驚きました。

コンマの後は半角 1 スペース、ピリオドの後は半角 2 スペース空けるのが通常です。上記の 2 人の Native に聞いたところ、今はピリオドの後は半角 2 スペース空けないで 1 スペースだけという人もいるということですが (2 スペースはタイプライター時代の名残だそうです) 2 スペース空けたことに対して怒る人はまずいないから、空けておいたほうが無難だろうということでした。

また、各パラグラフの先頭は半角 5 から 7 スペースくらい空けるのが通常です。中にはまったくスペースを取っていない人がいて、どこからが次のパラグラフなのか全くわからない人がいて驚きました。このくらいのことは KUEL のマニュアルにも書いてあると思うのできちんとチェックしてください。

さらに注意すると、タイトルの各単語の先頭は大文字です。もしくは全部のアルファベットを大文字にしてもかまいません。冠詞や前置詞によっては小文字のままで良い場合もあります。自分のタイトルの体裁を Native に確認してみてください。

(エ)あなたが言っている “ We ” とは誰を指すのか？

“ We ” は “ I ” とは違うにもかかわらず、不用意に “ We ” という単語を使って、聴衆や Judge から反感を買いかねない人がたくさんいました。

「我々は他人に感謝が足りない」とか「人が自殺するのは私達のせいだ」とかいう台詞を何も考えずに発している人がたくさんいました。聞いている私からしたら、「私は他人をないがしろにしたことなどない」、「人が自殺するのは私のせいではない」と思っているので、Speaker が勝手に考えている一般人のイメージの中に私も入れられてしまったことに不愉快になってしまいます。

自分と周囲の人たちが違うのだということをもっとよく考えてみてください。例えば、「私達はユビキタスという言葉を知らない」なんて言っている Speech もありました。この場合、「ユビキタス」を知らなかったのは、この Speech のリサーチを始める前の常識のない「自分」であり、「周りの人」はそんなことは常識として知っているのではないかと検証すべきです。“ We ” という言葉を使って、「そんなことも知らない人たち」の中に勝手に聴衆を当てはめっていると、これまた要らぬ反感を買ってしまうことになります。

主語に “ We ” や “ You ” のような一般的な代名詞を使うのではなくて、主語を、例えば「コンピューターに詳しくない 60 代以上の高齢者は」のように限定してあげることがポイントだと思います。また、限定しても違和感が残る場合は、「コンピューターに詳しくない 60 代以上の高齢者の『多く』は」などといって逃げを打っておくことも良いのではないのでしょうか。

(オ)ガイドラインを設定せよ？

去年からのこの傾向が顕著に現れてきましたが、「政府はガイドラインを制定せよ」ということだけを単純に提案に挙げている Speech が末川杯でもたくさんありました。要するに、「手順さえしっかりしたガイドラインを作ればリスクを回避することができるのに、日本政府はそのガイドラインを作らない」という趣旨の内容なのですが、ここで考えるべきことは、日本政府はガイドラインを作るための専門知識に欠けているからそれを作れないのか、それとも、日本政府はガイドラインを作るための専門知識は十分に持っているが、何らかの別の理由によってそれをつくらないのか、どちらなのかということです。

全ての Speech では、「日本政府は欧米でやっているようなガイドラインを作るべきだ。まず 〇〇 という薬を 〇〇 病の患者に投与する。 〇〇 という判定が出たら、 〇〇 の間投与を続ける。その間、 〇〇 のようなアレルギー症状が出た

ら・・・」といったように、ガイドラインの極々概要だけを説明し、それを導入しただけ単純に述べて終わっています。ガイドラインの内容を述べ、それを導入しただけしか言っていないということは、「日本政府は知識が無いから作れない」という上記の に該当する事を言いたいのでしょう。

しかしこれには納得がいきません。私は官僚組織が大嫌いですが、官僚のリサーチ能力に関しては一定の評価をしています。彼らは、超有名大学を卒業して、その後その分野に関する研究を日々重ねているのです。そんな官僚が、図書館で聞きかじった一介の大学生が提示している諸外国の例を知らないわけがないのです。あまり官僚をなめてはいけません。その分野の官僚は、恐らくあなたよりも千倍も一万倍もこの分野については詳しいはずです。

ですから、単純に日本政府は諸外国のガイドラインのようなものを導入しただけ言って終わるのは何の意味もありません。官僚は、諸外国にどのようなガイドラインがあるかなんてことを、わざわざあなたに言われなくても知っているはずですよ。しかも、あなたなんかよりも一万倍も詳しく知っているはずですよ。それなのにそういった諸外国の例を日本に導入しようとしません。そう考えると、「知っているのになぜ導入しないのか」という点を掘り下げなくてはならないということがわかると思います。

そこには、「業界との癒着」や、「必要以上にリスクを取らずリターンを取り損う役人体質」等の原因があるのかもしれません。もしそうならば、モデルとなるガイドラインの提示と共に、それを導入する障壁となっている原因を特定し、障壁を取り除くような提案を Speech で込めてあげなくてはなりません。

(カ)4 分や 5 分台の Speech が多すぎる

今回の末川杯はいつも私が審査を行っている大会と違って、4 分や 5 分台で終わってしまう Speech がたくさんありました。しかし、これほどもないことはありません。他の人は皆、何とか 7 分台に抑えようと、原稿を極限まで削っているのです。にもかかわらず、一部の人の残り時間は過剰に残されている。そして、おしなべてそういう Speech は不足している論点が多く、改善すべき点が多々あるのです。

最後にもう一度、自分の Speech が何分くらいで終わるのかを確認してみてください。まだ余分に時間があればしめたものです。自分が最も言いたい事に関する具体例・比喩などを効果的に加えてみてはいかがでしょうか。4 分や 5 分で終わっている Speech に対して、「これで必要十分だ」ということはありません。最後まで不足点をカバーする努力を怠らないで下さい。

III. おわりに

(ア)はじめての関西大会の審査

実を言うと私は現役時代・OBを通して、関西の大会に出場したこともなければ、審査員と呼ばれた経験ありません。ですから、今回の末川杯から予選審査員としての依頼が来た時、是非とも何かのお役に立てたらと、心から湧き上がる思いをひしひしと感じました。

今回の末川杯では合計 33 通の応募がありましたが、基礎的な英語や論理技術にまだまだ改善が必要な Speech がたくさんあったというのが正直な感想です。ですから、出場が決まった人も、残念ながら落選してしまった人も、ここで終わりにするのではなく、絶えず原稿を改良し、デリバリーの練習に励んでください。

自分のホームページにも書きましたが、素直な心を持って、自分が納得した点であれば解決を図ろうという人には、必ず勝利の女神が微笑んでくれます。あきらめないで頑張ってください。

みなさんの活躍を祈っています。

長々とありがとうございました。

Speakers are not braver than anyone else.

They are just braver seven minutes longer on the stage.